

令和6年度 自己評価表

中長期目標	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまいかと、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)

評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	最終評価	
					経過・達成状況	改善方策
1 学力の向上	① 授業改革と学力の向上	○ 各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が84% ○ 授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が71% ○ 授業等におけるSTEAMLabの活用や公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる ○ 基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている	○ 「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ 「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が70%以上 ○ 鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる ○ 基礎力診断テストの評価が向上している	○ 授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○ 教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○ STEAMLabを積極的に活用しながら、その成果を各教科で共有し、応用・実践する ○ 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする		
	② 主体的な学習態度と実践力の育成	○ 授業の規律を随時周知し、「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% ○ 知的好奇心を刺激する授業づくりに努め、「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% ○ 面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認し、R5.11月自宅学習時間調査 1日平均99分(R4:117分、R3:100分、R2:80分) ○ 資格・検定の案内とともに各科・各教科で合格に向けて補習指導を行っている	○ 「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ 「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ 11月自宅学習時間調査が1日平均100分以上を維持している ○ 多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している	○ 「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する ○ STEAM教育を念頭においた授業研究を継続する ○ 担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める ○ 資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す		
2 豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○ 面談、各種アンケート(ハイパー・Q・いじめ・生活振り返り等)、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○ 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高め、「互いを尊重し合いながら学校生活を送っている」とする生徒の割合が87% ○ 校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かしている	○ 悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○ 一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○ 日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている	○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○ 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める ○ 人権教育関係の研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす		
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○ 各種安全教室、朝の交通指導、5S・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が95% ○ 9つの部活動・同好会の生徒が中国・全国大会へ出場している ○ 年2回テクノボランティアを実施。桜ヶ丘グリーンゾーン活動へも参加した ○ 2019年度比で2月末で可燃ゴミ排出量27.1%減、電力使用量4.2%増であった	○ 「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90%以上を維持している ○ 多くの生徒が部活動に熱心に取り組む、大会等で活躍している ○ 社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○ 環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5%減、電力使用量1%減となっている	○ 各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5S・あさひについて積極的に指導する ○ ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し、意欲を促す ○ 様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける(chrome book活用) ○ 可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う		
3 キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○ 企業見学は3学年とも実施した。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で実施した。インターンシップは第2学年で実施した ○ 鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、ものづくりに熱心に取り組んだ ○ 一人一資格取得率・検定合格率は全体88.3%(3年95.6%、2年81.0%、1年85.7%) ○ スーパー工業士に11名の生徒が認定された	○ 専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○ 学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○ 年間の一人一資格取得率・検定合格率が60%以上、かつ3年間での一人一資格取得率・検定合格率が90%程度を維持している ○ 第2期のスーパー工業士に応募した生徒が、全員認定される。第3期生について、全ての科から認定者を輩出する	○ 企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○ 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○ 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う ○ スーパー工業士の趣旨を説明し、第3期については全ての科から応募を募り、認定に向けて指導する		
	② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	○ 校内外と連携して進路行事・進路指導を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89% ○ 就職一次試験の合格率高く(R5:97%)、進学では推薦制度等を活用し8名が大学に合格した ○ 個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができて」とする保護者の割合が77% ○ ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策が充実しつつある	○ 各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ 就職一次試験の合格率90%以上を維持し、進学では推薦制度等を活用し第1希望の学校に合格している ○ 「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができて」とする保護者の割合が80%以上 ○ ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている	○ 各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○ SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する ○ 進路行事や各種情報を生徒・保護者に周知し、進路相談に対して丁寧に対応する ○ ICT機器で進路情報の提供・活用ができるよう、環境を整備する		
	③ 地域や産業界との連携強化	○ 分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」とする生徒の割合が84% ○ PTAだよりや玄関内大型モニターで本校の特色等をPRした。「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が79%	○ 地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」とする生徒の割合が85%以上 ○ 「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80%以上。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○ 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ ホームページの充実及びホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する		
4 業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	○ 学校行事は終了時点で反省点がまとめられている。ネットワークフォルダ内を点検してファイルを整理し、業務マニュアルの保存場所を一部作成した ○ 部活動実施計画書で時間外業務を確認し、月30時間を超える場合は調整を促している ○ 時間外業務が月45時間を超えた職員は延べ12名で前年より減少した(令和5年度末)。年間を通じた時間外業務時間は令和4年度より約5%減少した。AI採点を試験的に導入、採点時間がかかり短縮できた	○ 分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化されて、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる ○ 部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている ○ 時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じての時間外業務は、前年度より減少している ○ 日常の業務が、前列踏襲に終始することなく、効率化が進められている	○ 電子ファイルの整頓を確認し、業務マニュアル作成を促進、学校行事は終了時点で次年度に向けてマニュアルを整備する ○ 部活動実施計画書に記載された時間を確認する ○ 勤怠管理システムの定期的な入力促し、教職員の各月時間外業務時間の本人確認を進める ○ 業務のICT化やAI採点の導入を推進する		

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動 デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC(品質管理) ストーリー：問題解決の手順